

氏名： 梁正善 (ヤンジョンソン)

論文名： 日韓国際結婚家庭に関する研究

－アイデンティティと言語を中心として－

区分： 甲

論文内容の要旨

本研究は、日本における日韓国際結婚家庭の親子を事例とした、アイデンティティと言語を中心に行った研究である。

日韓国際結婚家庭の親子のアイデンティティはどのように形成されるのか。世代別、ジェンダー別、留学経験別により分析を行った。

本論文は7章から構成され、各章の概要は以下のとおりである。

第1章の序論では問題の所在、研究目的、用語の定義、本論文の構成について述べている。

第2章では、理論的枠組と先行研究について述べ、先行研究については、日韓国際結婚家庭の親と子どもを巡る視点から概観し、その問題点を指摘した。

第3章では研究方法を詳細に記述し、研究課題として設定したのは以下の4点である。

1. 日韓国際結婚家庭の親子のアイデンティティはどのように形成されるのか。
2. 世代別にみる日韓国際結婚家庭の親子のアイデンティティ形成はどのように異なるのか。
3. ジェンダー(父が韓国人、母が日本人、父が日本人、母が韓国人)の違いによる日韓国際結婚家庭の親子のアイデンティティ形成はどのように行われるのか。
4. 留学や移動の経験は日韓国際結婚家庭の親子のアイデンティティ形成にどのように影響をもたらすか。

第4章では、日本における日韓国際結婚家庭の変遷と現状、および韓国における韓日国際結婚家庭の変遷と現状を比較し、考察した。

第5章では、日韓国際結婚家庭の親子のライフストーリー・インタビュー調査を通じて、個人の事例から日韓国際結婚家庭の親子のアイデンティティがどのように形成されるかについての結果をまとめた。また、子どもの継承語教育と子どもの国籍と名付けが、アイデンティティにどのように影響するのかを明らかにした。さらに、親の国籍、名乗り、永住、教育観によるアイデンティティ形成と変化についても分析を行った。

第6章では、日韓国際結婚家庭の親子の言語とアイデンティティの関係を言語ポートレートで描きだし、考察した。

第7章の結論では、研究内容を総括し、今後の課題について述べた。

本研究では、ライフストーリー・インタビュー調査と言語ポートレートを通して日韓国際結婚家庭の親子のアイデンティティと言語の関係を解明することにより、アイデンティティの形成要因について検討し、その結果は具体的に以下の8つにまとめられる。

1. 日韓国際結婚家庭の子どものアイデンティティは、韓流ブームや韓国文化、韓国語などを積極的に取り入れることにより強まる傾向にある。
2. 国籍変更は、日韓国際結婚家庭の親のアイデンティティに影響を及ぼさない。
3. 永住による日韓国際結婚家庭の親のアイデンティティは、二つの文化と言語が共存（尊敬）し合っているアイデンティティである。
4. ジェンダー別による日韓国際結婚家庭の親の名乗りは、父親が韓国人の場合は韓国名を使用し、母親が韓国人の場合は生活の利便性のため夫の日本姓を名乗る傾向がある。
5. 日韓国際結婚家庭の子どもの名前は、両国で使えそうな名前を採用し、国籍も二重国籍にしている。
6. 日韓国際結婚家庭の親に留学と移動の経験があっても、子どもへの言語と文化的アイデンティティ継承は、各家庭の状況や親の価値観、教育観などによって異なる。
7. 日韓国際結婚家庭の子どもの学校選択は、親の留学や移動の経験によるものではなく、各家庭の状況と親の教育観によって異なる。
8. 研究協力者の言語ポートレートを身体部位別に分け、アイデンティティとの関連性について分析すると、頭と心臓（胸、心）に韓国語と日本語を描き、自分の核（中心）であることを示した。さらに、腕と手で日本語（母語ではない生活言語）を人生の道具として位置づけていた。尚、足（脚）に自分の母語（日本語や韓国語）を描くこと

は研究協力者の礎という意味で捉えられる。

結論として、日韓国際結婚家庭の親のアイデンティティは、二つの言語と文化が共存・融合しているアイデンティティ、つまり「共存アイデンティティ」といえる。また、日韓国際結婚家庭のこどものアイデンティティは、幼少期に継承語教育（韓国語）が保持できなくても、家庭生活の中での飲食や韓国の行事など、言語以外の韓国文化によって影響・維持されるすることが示された。このことから、日韓国際結婚家庭の親子のアイデンティティには言語能力により形成されるだけでなく、言語能力以外の文化的要素によっても決定されていることが分かった。韓国文化、韓流ブームの影響などの文化的要素を通じて、日韓国際結婚家庭のアイデンティティが形成されているといえる。また、子どもは大学生になり、第二言語として韓国語を学ぶことにより、継承語との距離感を縮めていることもうかがえる。まだ成長段階にある日韓国際結婚家庭の子どものアイデンティティは、親の価値観や教育観により学校選択や継承語教育にも影響を及ぼす。

したがって、日韓国際結婚家庭の親子のアイデンティティは流動的で、そこには変化の要素が大いにあると考えられ、継続的な調査と研究が必須であると判断した。